

## 競 技 注 意 事 項

### 1. 競技規則について

競技は2021年日本陸上競技連盟競技規則と本大会申し合わせ事項により行う。競技規則TR5.2、TR5.5、TR5.13.3に適合しないシューズの使用は認めない。ただし、フィールド競技用シューズについてはTR5.5の適用を除外する。

### 2. 競技場への入場について

- (1) 入場は出場種目開始の2時間前からとし、1F正面玄関のみとする。
- (2) 退場はマラソンゲートを使用すること。再入場はマラソンゲートからのみとし、入場は当日配布する入場許可証をゲート担当に提示すること。
- (3) 無観客競技会として開催するので、正面2Fメインスタンド入口は開放しない。

### 3. 練習について

- (1) 練習はバックスタンド後方（東側）の練習走路を使用すること。走る方向は北から南の一方通行とし、逆走は禁止する。個人のハードル等は持ち込まないこと。また、ゴムチューブ等を使用したスピード練習は禁止する。
- (2) バックスタンド後方（東側）の練習走路でのハードル練習は禁止し、競技開始前のハードル設置後に行うこと。
- (3) 競技開始前のトラック練習は、競技開始の30分前までとする。  
[ホームストレート・バックストレート]  
○1・2レーン＝長距離周回練習   ○ジョグ＝レーン外  
○3～5レーン＝コーナーからのスプリント練習   ○6～9レーン＝直線からのスプリント練習  
**※順番待ち等は、密を避けるように距離を保って行うこと。**
- (4) 競技場でのリレー練習は一切認めない。
- (5) メディシンボールなど、物を投げる練習は、競技場の内外を問わず長居公園内全体で禁止する。
- (6) 走高跳、走幅跳、三段跳は準備が整った後、競技役員の指示で練習してもよい。

### 4. 招集について

- (1) 招集所は室内練習場に設ける。招集所への携帯電話・スマートフォン・タブレット等の通信・録画機器（タブレット等）の持ち込みは禁止する。
- (2) 競技開始2時間前～1時間前（棒高跳のみ1時間30分前）までに「体調管理チェックシート」を招集所の競技者係に提出し、アスリートビブスと競技で使用するシューズの確認を受けることで一次招集完了とする。ただし、競技開始の2時間前が開門時刻より早いときは、開門時刻以降受け付ける。
- (3) 二次招集は現地招集とし、競技開始時刻のトラック競技は15分前開始10分前完了、フィールド競技は50分前開始40分前完了とする。（棒高跳のみ70分前開始60分前完了とする。）
- (4) 一次招集に遅れた競技者は、出場する意思がないものとみなし処理する。
- (5) やむを得ず欠場する場合は、「欠場届」をできるだけ速やかに競技者係へ提出する。
- (6) 点呼の代理は認めない。ただし、2種目を同時刻に兼ねて出場する競技者は、「体調管理チェックシート」にすべての種目を記載し、最初の種目の一次招集を完了することで、2種目の一次招集も兼ねることとする。ただし、同時刻帯に競技が行われる可能性がある場合は、「多種目同時出場届」を競技者係まで提出すること。

(7) リレー競技について

①オーダー用紙はプログラム巻末の所定の用紙を使用し、開門時刻から組により設定されている競技開始時刻の90分前までに競技者係に提出すること。また、顧問のサインが必要なので、事前によく打合せを行うこと。なお、今回は代筆を認めることとする。

②二次招集時にはオーダーメンバー全員が点呼を受けること。多種目に出場していて、多種目同時出場届の提出が完了している場合には代理でも可とする。

(8)トラック競技では、腰ナンバーカードをパンツの右側やや後方に付けること。

(9)4×400mの第2走者・第3走者は、次走者の待機順を明確にするため、右側に腰ナンバーカードをつけること。

(10)男子5000m、女子3000m、および男女競歩は別ビブスを使用する。

5. 番組編成および競技の抽選について

(1)トラック競技の予選のレーン順、およびフィールド競技の決勝の試技順はすべてプログラム記載の順番とする。なお、準決勝以降の組み合わせはすべて番組編成員が行い、電光掲示板に表示するとともに、大阪高体連WEBページに掲載する。

(2)トラック競技における次のラウンドへの進出者について

①(+α)を決めるとき、その最下位で同タイム(1/100秒単位)が出た場合、写真を拡大して1/1000秒単位の実時間で優劣の判定をする。

・レーンに余裕がある場合・・・同タイム(1/1000秒単位)の競技者の進出を認める。

・レーンに余裕がない場合・・・本人または代理人により抽選する。

②同着により着取りによる進出者が増えた場合は、(+α)での進出者数を減らす。

③800mとレーンを使用しない種目は、同タイム(1/1000秒単位)の競技者は全員が次のラウンドに進める。

6. 競技について

(1)アスリートビブスは必ず胸部と背部につけること。ただし、跳躍競技は胸部または背部だけでよい。

(2)スパイクのピンは、本数は11本以内とし、9mm以下の全天候競技場用のものを使用すること。

ただし、走高跳・やり投については12mm以下とする。また、スパイクの直径は先端近く(少なくとも長さの半分)で、4mm四方の定規に適合するように作られていなければならない。

(3)短距離競走は、フィニッシュラインを過ぎてもレーンに沿って走ること。

(4)男子5000m・女子3000mはグループスタートとする。

(5)5000m競歩では、ラスト1周で男子35分、女子38分を超える選手は、トラック審判長により競技を打ち切る場合がある。

(6)競技エリア内に通信機器(スマートフォン・携帯電話・無線機等)やビデオ撮影機器(タブレット等)を持ち込んではいならない。また、競技エリア内で助力を与えたり受けたりしている競技者は失格の対象となる。フィールド競技中に競技者が、それ以前の試技映像をコーチ席以外の場所から見ることや、録画再生機器等をスタンドからの手渡しや吊り下げ等により、競技エリア内に持ち込むことは認めない。

(7)声援(応援)及び不正な助言行動は自粛すること。

(8)投てき競技と棒高跳の滑り止めは、主催者で準備しないので個人で持参すること。

(9)競技場での練習は、競技役員の手配に従うこと。

(10) フィールド競技の試技時間は次のとおりである。

【単独種目】

残っている競技者数	走高跳	棒高跳	その他
4人以上※	1分	1分	1分
2～3人	1分30秒	2分	1分
1人	3分	5分	—
連続試技※※	2分	3分	2分

※4人以上または各競技者の最初の競技

※※走高跳・棒高跳では、残っている競技者が二人以上で、同一の高さの時のみ適用する。

高さの種目 バーの上げ方について

走高跳	男子	1年	1m60(練)	65	70	75	80	以後3cmずつ上げる	
		2年	1m65(練)	70	75	80	85	以後3cmずつ上げる	
	女子	1年	1m30(練)	35	40	45	50	以後3cmずつ上げる	
		2年	1m30(練)	35	40	45	50	以後3cmずつ上げる	
棒高跳	男子	1年	2m60から以降4m00まで20cmずつ					4m00	以後10cmずつ上げる
		2年	3m00から以降4m00まで20cmずつ					4m00	以後10cmずつ上げる
	女子	1年	2m00から以降10cmずつ上げる						
		2年	2m20から以降10cmずつ上げる						

決勝で最後の一人となり、優勝者が決まるまでは、上記のバーの上げ方とする。

同記録による1位決定と近畿大会出場権を決定するバーの上げ下げは走高跳2cm、棒高跳5cmとする。

男子棒高跳および女子棒高跳の練習は現地にて跳躍審判の判断により設定する。

(11) 跳躍種目 競技場所および踏切板位置について

男女走幅跳および男子三段跳は、1組をAピット（トラック側）、2組をBピット（スタンド側）とする。それ以外は1組（1ピット）実施する。

女子三段跳はバックスタンド前ピットで行う。棒高跳は、第二曲走路外側の北ピットで行う。

踏切位置（砂場から） 男子三段跳 1年…11m 2年…12m

女子三段跳 1年…9m 2年…10m

(12) 投てき種目について

砲丸投を除き、投てき種目について、次の記録以下の者はベスト記録のみ計測する。

種目	男子1年	男子2年	女子1年	女子2年
円盤投	20m	25m	20m	23m
やり投	30m	35m	20m	23m
ハンマー投	20m	30m	15m	20m

7. 競技用具について

やり及びポール以外の競技用具は、競技場備え付けのものを使用する。やりの検査受付は、競技開始時刻の90分前より20分間、用器具庫で行う。

8. 抗議について

抗議は総務員に口頭で申告し、総務員が審判長に取りつぐ。

## 9. 式典および表彰について

- (1) 開始式は、アナウンスと電光掲示（映像）により簡素化して行う。表彰式は、行わない。
- (2) 男女別・学年別学校対校を行う。種目得点は1位8点～8位1点とし、1・2年の得点およびリレーの得点を合計して総合優勝を決定する。
- (3) リレーを除く種目で6位までの入賞者に賞状を授与する。ただし、種目別表彰は行わない。
- (4) 大会最終日の表彰式は行わないが、男子総合、女子総合の8位までと男女学年別総合3位までの学校に、賞状を授与する。
- (5) 男女学年別に優秀競技者賞を授与する。但し表彰式は行わない。
- (6) 男女総合優勝校の顧問に部長賞を授与する。但し表彰式は行わない。

## 10. 近畿ユース大会出場について

- (1) 近畿ユース大会への出場者は各学年、各種目3位までの入賞者とする。ただし、男女走高跳および男女棒高跳は3位までに入賞した3名とする。リレー種目は6位までとする。
- (2) 近畿ユース出場が決定した競技者は、正面ロビーに設置する近畿ユース大会の受付を済ませること。賞状はその際に授与する。
- (3) リレー種目のチーム（学校）は、近畿ユース大会受付でリレーオーダー用紙を受け取り、オーダーを記入後、顧問のサインを得て申し込みを行うこと。

## 11. 競技場の使用について

- (1) 競技者・付添等の関係者は指定された出入口から入退場すること。
- (2) 声を出しての応援は禁止する。
- (3) 横断幕、ノボリの設置はすべて禁止する。
- (4) 以下の箇所にはテントを設置しないこと。
  - ①南北の芝スタンド（土盛スタンド）の中段より下
  - ②メインスタンド中段通路より下側およびメインスタンド屋根下
  - ③メインスタンド記者席からフィニッシュ側の4ブロックエリアなお、テントを設置する際に、ロープ等が通路にかからないようにすること。
- (5) 使用した場所は各学校で責任を持って清掃し、ゴミ等は必ず持ち帰ること。
- (6) トラック、フィールドおよび練習走路以外でのスパイクの着用は禁止する。

## 12. その他

- (1) 顧問の受付がない学校の競技者の出場は認めない。
- (2) 競技中に起こった怪我は、本部の医務室で応急処置のみを行う。
- (3) 記録は、電光掲示板およびWEBページで確認すること。（記録ボードは設置しない）
- (4) 全ての競技者は、競技終了後に手洗い・消毒を行ってから退場すること。
- (5) 盗難の発生や忘れ物に注意し、荷物等の管理は各校で十分注意すること。
- (6) プログラム記載の個人情報(氏名、学校名など)および大会結果は、新聞および大阪陸上競技協会のWEBサイト（大阪高体連陸上競技専門部）に記載されるが、本大会関係以外には一切使用しない。

第54回近畿高等学校陸上競技対校ユース選手権大会について

期 日：9月17日（金）～19日（日）

場 所：京都市・たけびしスタジアム京都（西京極総合運動公園）

総監督：船津哲史（大塚）